蔵六使用の献額　昭和頃／善龍寺蔵

増田蔵六肖像画慶応２年（1866）
森田五水筆／増田家蔵

六蔵使用の小太刀：65.0cm／増田家蔵

六蔵使用の大太刀：93.5cm／増田家蔵

六蔵使用の棍　／増田家蔵

八王子の天然理心流

天然理心流は、寛政年間（一七八九～一八〇〇）近藤内蔵之長裕によって創始された武術の一流派である。弓術、馬術、槍術等の武術は中国から伝わったものが多い。我が国では、室町時代末期から戦国、江戸時代初頭に成立したという。寛政の改革で文武両道が奨励されると、武術は実用主義の剣術や剣法が徐々に広まっていった。天然理心流は、三大流派の一つ天真正伝鹿島神道の流れを継ぐ。剣術、柔術、棍法（棒術）を含む新流派のひとつとなった。

八王子で二代目を継いだ坂本三助は、出稽古中急死した。門下で育った師範たちは、三助と同郷の戸吹出身の増田蔵六、松崎正作らが地元で門人の育成にあたった。特に蔵六は、弟子達からの信望が厚かったが、三代目は島崎周平が継ぐことになった。四代目近藤勇、その他新撰組隊士の輩出で、天然理心流の名は全国的に知名度を上げていくのである。

◇散歩のみどころ

滝山城の城下町加住町から戸吹町まで、谷地川及び滝山街道沿いの神社、仏閣を歩く凡そ四kmの行程。

滝山城址下バス停から新道を横切り、板碑で有名な龍源寺へ。さらに神明神社から山道を歩き富士浅間神社へ。山道を下り、懸仏が安置されていた勝手神社へ。再び滝山街道に出て、近代教育者青木魯平の碑がある宝印寺へと歩く。次は、都心から移転した大乗寺、千姫の碑がある最教寺へと向かう。さらに旧道を歩き、常福寺、若松神社へ。山椒魚生息池の側を通り、滝山街道へ。旧家の長屋門を見ながら、武田家に由来のある無量寺へと歩く。そこから街道を少し行くと、この地方の近代学校の出発点である明化学校（現、戸吹町会館）跡。そして、天然理心流の発祥地戸吹の桂福寺へと着く。ここで解散。

●滝山城址と城主

滝山城は戦国時代の名城であり、八王子城と共に、その城址は文化遺産として国指定史跡となっている。

築城は、大永元年（一五二一）武蔵守護代大石定重といわれている。

天文十五年（一五四六）、小田原城主三代北条氏康の三男北条氏照を養子に迎えた。氏照は北条氏の軍事最高司令官、そして外交官として上杉謙信、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など天下に名だたる武将と堂々と渡り合った。また、城の築城技術も優れており、滝山城の改築および八王子城の築城を行った。

天正十八年（一五九〇）北条氏は豊臣秀吉に敗れ、三男という立場ながら氏照も戦さの責任を問われることになり、享年五十一歳で自刃した。

●滝山城と山岳信仰

滝山街道にそった加住地区には、山岳信仰に関する寺や神社が大変多く、梅坪の威徳天神社、子守神社、勝手神社、丹木の子の権現社、金蔵寺、宝印寺、滝の不動院、高月の円通寺など、まるで滝山城を取り囲むように点在していた。中でも子守、勝手の天神二社は、奈良県吉野山に祀られている吉野蔵王権現や八神を移して祀られたもの。すでに南北朝時代には山岳信仰が加住地区にも広がっていた。こうした特長のある加住という地に、高月城、滝山城は築かれた。山岳信仰が普及していた様子は、寺や神社に限らず地名からもうかがい知ることができる。

北條家城跡圓

①白峯山龍源寺

加住町二―六十四

宗派　曹洞宗通幻派
本尊　釋迦如来立像
寺宝　板碑（市文化財）
　　妙優観音
開山　桂巖暁暾大和尚
開基　織田信長の臣　大沢将監
開創　不明

天正年間（一五七三～一五九二）に織田信長の臣、大沢将監安政が開基となり創建。慶安二年（一六四九）境内鎮守神明社へ御朱印八石五斗を拝受する。この付近は、古くから大沢村と称した。観音さまは、優しい顔をして頷なずいておられるような観音さまで、里人は「縁結び観音」と呼んでいる。また境内には、文政七年（一八二四）銘の「理趣塔」があり、その地下には石経（小石に経文を書いたもの）が埋まっているといわれている。

龍源寺本堂

理趣塔
小石に経文を書いて埋めた場所に建つ

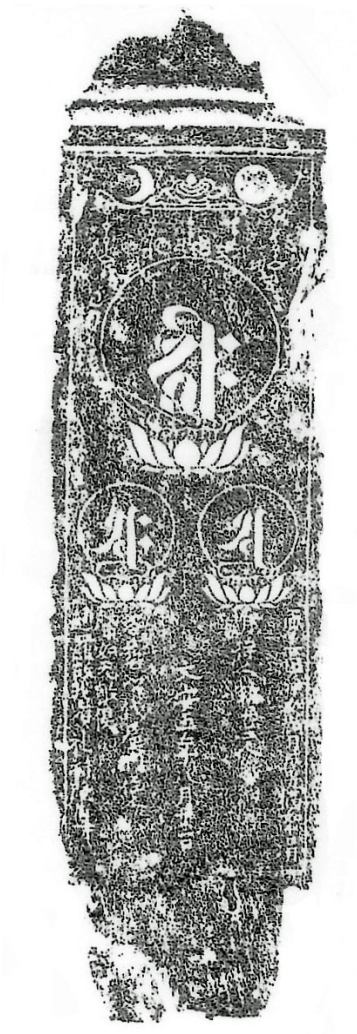
●文安の板碑

武蔵名勝図会によると、この板碑は挿絵が描かれており、文安五年（一四四八）の銘がある。月待板碑の代表例として評価されているという。

昭和三十九年（一九六四）市文化財に指定され、本物は本堂内に安置されているが、八王子市郷土資料館に精巧なレプリカが展示されている。高さ百三十cm、幅三十四cm、厚さ四cm。阿弥陀三尊を梵字で表した月待供養碑である。月齢の日に人々が集まって飲食を共にし、月の出を待って拝む民間信仰である。碑面には、次のように刻まれている。

面善円浄如満月威光如千月日
月待人数廿三人敬白
文安五季八月廿三日
谷慈郷代屋村住人
聲如天鼓倶
翅羅故我頂礼弥陀尊

「面善円浄云々」は十二来という経典の一節であり「故我頂礼弥陀尊」はその結びである。月待の板碑らしい引用である。特に「谷慈郷代屋村住人」の二十三人が、月待供養の行事をこの地で行ったことが明示されている。これは、直接史料になりにくい中世部落を明記した唯一例として大変貴重である。谷慈郷とは、当時谷地川の流域全般の呼称であった。



文安の板碑（右が本物）

②神明神社

祭神　天照大神　他
社宝　正和元年（一三一二）板碑
開創　創建年代不詳
例祭　四月十四日

新編武蔵風土記稿には「十二天社は森越に、冨士浅間神社は村の南の山上にあり」と記されている。また谷慈郷とも記されている。この地は古くから藤原氏の荘園として存在し、神明、浅間、吉野を信仰し今に至っている。

神明神社

③冨士浅間神社

加住町二―三十三

祭神　木花開耶姫命
創建　不詳

新編武蔵風土記稿によると、創建は六百余年前といわれ、その間二百余年間は社殿廃滅していた。曹洞宗龍源寺の守護神社で、寺の南の山にあり、富士山が良く見えたので、その年の吉兆を「早春の富士のお山の姿」で占うなどの言い伝えがある。社徳は、火防・安産・開運等とされる。なお、昭和四十七年（一九七二）社殿を再建した。

冨士浅間神社

●風水から見る江戸の陰穴

太田道灌が江戸城を築いた際に、江戸城に「気」を送り込むために作ったと伝えられている。

風水には陰と陽の理論があり、龍穴には、陰穴と陽穴の二つがある。龍の力を完璧かつ最高に活用するには、二つの龍穴を使うことが最良の道である。穴を掘ることではなく、良い気を呼び込み、気が逃げないように工夫することである。そのために神聖な場所として神社仏閣などを建てるのが良いとされている。

仮に東京の陽穴が川越の喜多院だとすると、風水理論にかなったところは加住町の冨士浅間神社であると推測する。今でも浅間神社の境内から東京の新宿高層ビルが見える。かつて天気の良い日には東京湾が見えたといわれている。したがって、富士浅間神社から江戸城に気を送り込むことも可能だったのではないかということになる。

④勝手神社

加住町一―十一

祭神　押武日之命
（おしたけびのみこと）
社宝　懸仏

大石氏の滝山城時代、武州御嶽神社の武神である勝手明神社を分祀した。大石重信が貞和五年（一三四九）懸仏一面を奉納。天文七年（一五三八）社殿を再建し、「勝手明神」と称した。明治初年「勝手神社」と改称。現在の社殿は昭和四十二年（一九六七）の造営である。

社徳は、五穀豊穣、万民安寧のほか、特に女性に効験があるとされる。お勝手を預かる女ご衆の味方だから「お勝手さま」と呼ばれたともいわれている。

また、境内には蚕の守り神である「蚕神社」がある。

勝手神社

●懸仏（かけぼとけ）

ここには貞和五年（一三四九）銘の懸仏が保存されていた。

懸仏は、本地垂迹説（仏が人間を救うため神となってこの世に現われるという説）の影響で、神鏡に仏像等を取り付けたものをいう。

勝手神社の懸仏は、銅製、鍍金（表面のみ）直径二十二㎝の鏡板の中央に、蓮華座に坐す高さ十㎝の薬師如来一尊を配置し、台座の左右に一対の宝瓶を配置したもの。裏面に「武州多西郡留所村金峰山之御正体、貞和五年季巳年己丑七月五日敬白若桜守真」と銘記されている。

懸仏は、現在八王子市郷土資料館に寄託されている。

懸　仏

⑤薬王山千手院宝印寺

加住町

宗派　天台宗　高月円通寺末
本尊　観音菩薩、境内に火防観音
開山　僧晃円上人、
開基　中興　塚原治左衛門
開創　四百八十年程前

勝手神社の別当寺であった。現在の本堂、観音堂は江戸末期の建築。

宝印寺本堂

●中興開基塚原治左衛門

創建年代は不明であるが、中興再建は、天正十九年（一五九一）甲州からこの地に移った塚原治左衛門と伝えられている。境内には、塚原氏の宝篋印塔がある。

●火防（ひぶせ）の観音堂

観音堂は「火防観音」として知られており、慶安二年（一六四九）観音堂領内御朱印五石を拝受している。本尊正観世音菩薩は行基作といわれている。

観音堂

●青木魯平（あおきろへい）の碑

青木魯平は、加住地区の近代教育に寄与した人物である。明治六年（一八七三）留所（とどころ）学舎の教員となり、軒ごとに歩きまわり地区の人々に勉強することを勧めたという。また、留所学舎の支校として戸吹、宮下村を対象に、無量寺で授業を始めた。これが、後に明化学校となった。

青木櫓平の碑

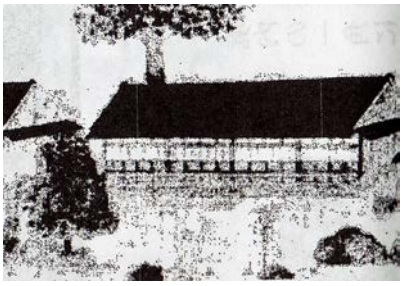
●加住地区の近代教育

明治維新後、政府は「国民皆学」を目ざし明治五年（一八七二）の「学制」を公布し、学区、学校、教員等の規制を行った。これに伴い、当時神奈川県下であった八王子五宿と周辺村落で三十四の学校が誕生した。

当時、加住地区に五つの「私塾」または「寺子屋」があった。明治六年（一八七三）に、留所学舎（仮学舎宝印寺、翌年金蔵寺に移転、留所学校と改称）と明化学舎（無量寺）、化育学舎（高月の円通寺）がそれぞれ三か所で授業を始めた。

参考のため、留所学校の概要を示す。

新築　明治十三年（一八八〇）五月
先生　三入寿三郎、沢井蘇之次郎
　　青木タケ、日暮英也他十六名
生徒　一学級五十名位一、二年
　　二学級五十名位三、四年
　　三学級五十名位五、六年
　　四学級三十名位高等一、二年
教科書　全国統一の国定教科書
　　国語、算数、地理、理科、図画、書き方
　　地理　尋常科は日本地図による、高等科は世界地図による。図画は四年までクレヨン
授業、午前八時より午後二～三時
弁当　サツマ芋、小麦のたらし焼等
通学　徒歩、草履
夏休　八月いっぱい
月謝　高等科二十五銭
通学地域　留所、大沢、矢野、丹木、梅坪、八日市、滝山、横山、左入、尾崎、馬場谷戸、滝、高月は五年生より



留所学校

●宝印寺地蔵菩薩

境内左側に安置されている。地蔵様は、仏教の菩薩の一つで、釈迦入滅後弥勒が出現するまでの間、現世に留まって衆生を救い、瞑府の救済をする仏である。毎月二十四日には、花を手向ける。

地蔵菩薩

⑥十行山大乗寺

加住町一―四十五

宗派　日蓮宗
本尊　大曼荼羅御本尊
　　（立正大師日蓮聖人像）
寺宝　梵鐘
開創　天正五年（一五七七）

当寺は小石川本郷駒込に創立。昭和の大戦にて焼失、約三百七十年の歴史に終止符を打って、昭和四十九年（一九七四）当地に移った。

大乗寺本堂

●梵鐘

天文元年（一七三六）七月二日、鋳物師森大道により鋳造。鐘の下部の縁をかこむ形で十二支が鋳造されており珍しいものである。

梵　鐘

梵鐘下部に鋳造されている
干支のねずみ

⑦天松山最教寺

宮下町百四十四

宗派　日蓮宗
本尊　久遠実成の本師釈迦牟尼佛
寺宝　釋迦牟尼仏立像、宗祖日蓮聖人座像、四天王像、大梵天王、帝釈天像、鬼子母神像
　　毘沙門像、位牌堂、一塔両尊四師
開山　仙能院日崇上人
開創　徳川二代将軍秀忠の頃

鬼子母神像

日蓮上人坐像

最教寺本堂

●縁起

日蓮宗総本山身延山久遠寺第二十七世通心院日境法主の弟子、仙能院日崇上人が上野池之端にその基を開いた。その当時、徳川二代秀忠の息女千姫が病脳にあい、密かに日崇上人の祈祷を受けた。その結果全快し、秀忠は、押上の二千坪余の土地に七堂伽藍を建立し、これを寄進したという。

その後、二度の大地震により全山焼失し、杉並の高円寺を経て当地に昭和四十年（一九六五）移転した。

徳川千姫毛塚の碑

⑧松龍山常福寺

宮下町三百五十四

宗派　禅宗曹洞派

本尊　釋迦坐像、文殊・普賢の座像

宮下町の小名日向にあり、滝山少林寺の末。

徳川二代将軍秀忠の頃、東照宮より朱印十石の寺領を賜る寺であった。明治末期、火災により阿弥陀堂、薬師堂、十二神木尊など全て焼失。現在は、鉄筋コンクリートの建物となり、保育園・老人ホームを併設している。

當山開基
仙能院日崇上人墓

●日向の六地蔵

昔話にも残る六体地蔵尊。宮下村の常福寺の門前に、天保十二年（一八四一）に造立した六地蔵で、子守地蔵として村人に親しまれていた。現在は・新しい六地蔵が立っている。昔からある六地蔵は門の左側にひっそり鎮座している。

日向の六地蔵

●白山稲利社

敷地内に白山稲利社が祀られている。新編武蔵風土記稿によると、「白山稲利社、本堂の西北の隅にあり小社」とある。注目は、鳥居に書いてある神社名で、白山稲荷社ではなく、白山稲利社と刻んである。

白山稲荷

⑨若松神社

宮下町

祭神　稚産霊神（わかむすびのかみ）
創建　不詳

荻嶌家の祖先は奥州会津若松の郷士であったが、鎌倉時代の初めに当地に来住し、若松大明神を勧誘し、裏山に祀ったのが始まりとされる。その後、荻嶌五郎左衛門が北条氏照の家臣となった。三代歌之助以後は八王子千人同心の組頭を務め、七代七郎左右衛門以後、宮下日向の名主を務めた。

旧道を通り、荻嶌家を過ぎたところにある地蔵さまの手前を右折、板塀を見ながら若松神社の境内に入る。鳥居は両部付き明神鳥居である。

寛政四年（一七九二）社殿再建の際、木造大龍権現三体を安置したと伝えられる。境内に天満宮、熊野神社が左側、八幡社が右側に祀られている。

●本堂の四囲を巡らす彫刻

本宮の四囲を巡らす彫刻は、塗装は施されていない素地のままのもので、いつ頃の彫刻か不詳。この地方ではまれに見る見事な彫刻である。

若松神社

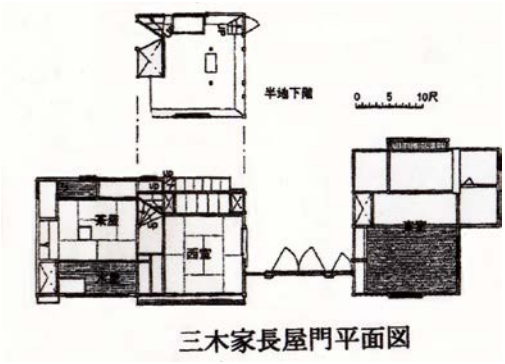
⑩天満神社と三木家の長屋門跡

戸吹町六十八

三木家は、千人頭志村組組頭を務め、三十四俵八升一人扶持。初代の桧子彦左衛門は、天正十年（一五八二）武田氏滅亡後、徳川家の家臣となった。また、高家前田家の知行地である戸吹村の名主を務めた。

三木家の長屋門は、武家屋敷に付随する門の一様式で、門の両袖が長屋になっている。長屋は家臣や使用人の住まいとして利用されたもの。元千人同心組頭の門を移築したと伝えられる。伝承では安政元年（一八五四）頃の建造とされている。ただ、その後明治末～大正期にかけて改修を実施している。

三木家千人同心長屋門



三木家長屋門平面図

●天満神社

新編武蔵風土記稿によると、百姓持とあることから、江戸時代後期には三木家が管理していたものと思われる。

天満神社は、上戸吹・根小屋城址に祀られてあったが荒廃したため、ここに移転改修して奉安したもので、扉にある天神さまの梅鉢の紋が印象的である。

天満神社

⑪寿福山無量寺

戸吹町

宗派　天台宗　高月圓通寺の末
本尊　阿弥陀如来
開山　義円上人
開基　八木岡弾正高秀
開創　天正年間（一五七三～九二）

甲斐から来て滝山城主北条氏照の家臣となった八木岡弾正高秀が創建した。寺が甲斐の国の方角の西側を向いた特徴ある寺である。

慶安二年（一六四九）朱印七石一斗を賜った。江戸期には、戸吹村南の山の根にあった熊野神社の別当寺であった。

明治六年（一八七三）には留所学舎支校として仮校舎にあてられた。

無量寺本堂

安内地蔵

阿弥陀如来

阿弥陀如来三尊

●高家前田家子孫の墓？

無量寺から南に行った、山裾にある同寺の墓の、上段の奥の方に、十数基の墓がある。中央の墓には

清篤院廸往浄空居士

妙篤院心月浄貞大姉

と刻んである。一説では、前田家に関する墓地ではないかと伝えられている。

前田家子孫の墓

前田家子孫の墓全景

●疫病除け弁天堂

本堂南側、塚上にお堂がある。流行の疫病除けに効果があると古くから伝えられる弁天様を祀っている。

弁天神堂

弁 天 神

⑫近代学校の出発点

明化学校

戸吹町百九十六

桂福寺の山門の前に古びた木造二階建ての目立たない家屋がある。現在戸吹町会館として使われているが、正面入口あたりの様子は一見、古めかしさの中にどことなく西洋風のハイカラな印象をあたえる。これが明治九年（一八七六）に建てられた「明化学校」である。当時は、門柱を繋ぐ鉄棒の中央にガス灯が取り付けてあり、アーチ型の玄関ドアの上には「明化」と記した校名額が揚げてあった。この額は時の神奈川県令野村靖の筆によるもの。（現在は、近くの八王子市戸吹会館に保管されている。）

明化学校は、明治九年（一八七六）に戸吹村北開戸にこの校舎を新築した。

明化学校の校名

日明化学校

サクラマークの鬼銅板

昭和３年の戸吹分校の生徒

⑬治龍山桂福寺

戸吹町百九十三
文政

宗派　曹洞宗。
本尊　釋迦如来
寺宝　鐘楼山門
開山　蓮光寺十世奪山正興大和尚
開基　八王子十八代官
　　福村長右エ門
開創　寛永二年（一六二五）頃

寛永二年（一六二五）三月八王子十八代代官福村長右エ門を開基として、その弟川越市渋井の蓮光寺十世奪山正興大和尚を開山とする。

本堂は元禄十六年（一七〇三）再建の間口九間半、奥行き六間半の伽藍であったが老朽腐激しく昭和四十五年（一九七〇）現在の鉄筋コンクリート建てに再建した。

桂福寺本堂全景

●鐘楼山門

文政六年（一八二三）三月九日建立。木造欅造り、茅葺（現在は茅葺の上に檜皮をふく）、寄棟二階建て、建坪約二十三㎡、の楼門で土台から露台まで　十ｍの高さの居館が美しく調和を保っている江戸時代後期の多様性を持った建造物である。

鐘楼山門

●天然理心流
近藤三助の墓碑

新選組隊長近藤勇を始め、江戸末期に数多くの剣の達人を生んだ「天然理心流剣」のふるさとは戸吹である。

滝山街道の戸吹交差点の南側の丘陵の麓に、「天然理心流」二代目近藤三助の屋敷と道場があった。江戸末期のことである。

戸吹郷士坂本登右エ門の子として生まれた坂本三助は、八王子宿に道場を持つ、天然理心流開祖近藤内蔵助長裕の門に入って腕をみがき、江戸でも有数の剣客になった。その技量を見込まれて、三助は近藤家の養子になり、二代目として戸吹に道場を開いた。農民商人の別なく、剣を志すものに広く門を開放した三助のもとには近在近郷から多くの人材が集まり、その門人の数は千五、六百人にも及んだという。この中に、のちの千人隊隊長増田蔵六や三代目

を継いだ境村（現町田市）の周助がいた。

近藤周助は、江戸牛込に出て道場を持ち、多くの門弟を育てたという。上石原村（現調布市）生まれの宮川勇、のちに養子となり四代目を継いだ近藤勇である。幕末の志士新撰組隊長近藤勇は、桂福寺は「天然理心流」を実際世に広めた二代目近藤三助の菩提寺である。

右・内蔵之助の墓
中央・内蔵之助と三助の墓
左・三助の墓

近藤三助の墓

●天然理心流を支えた松崎和多五郎則榮

「天然理心流剣」を戸吹村で支えたもう一人の立役者は松崎則榮である。

松崎則榮は、文化十三年（一八一六）戸吹村、松崎正作の子として生まれた。父正作は、近藤方昌に学び道場を開いていた。則榮は、松崎道場を継ぎ、千人同心組頭としての活躍とともに千人同心を中心に天然理心流を広めた。

長さ:100cm　直径：5.8cm
重さ：1860g

長さ:87cm　直径：5.8cm
重さ：1540g

松崎家に残る手製の木刀

●当時の八王子の剣術

十八世紀末、徳川幕府は老中松平定信を中心とした寛政の改革を進め、千人同心へも文武の奨励が申し渡された。

幕府によって千人同心の武術の修業が盛んになった。また、幕末期になると世情が不安になり、八王子をはじめ、多摩地方の村々でも名主層を中心とした農民や町民の間で剣術を習うものが多くなった。

当時八王子の剣術の流派は、大平真鏡流・天然理心流・甲源一刀流・柳剛流などであった。

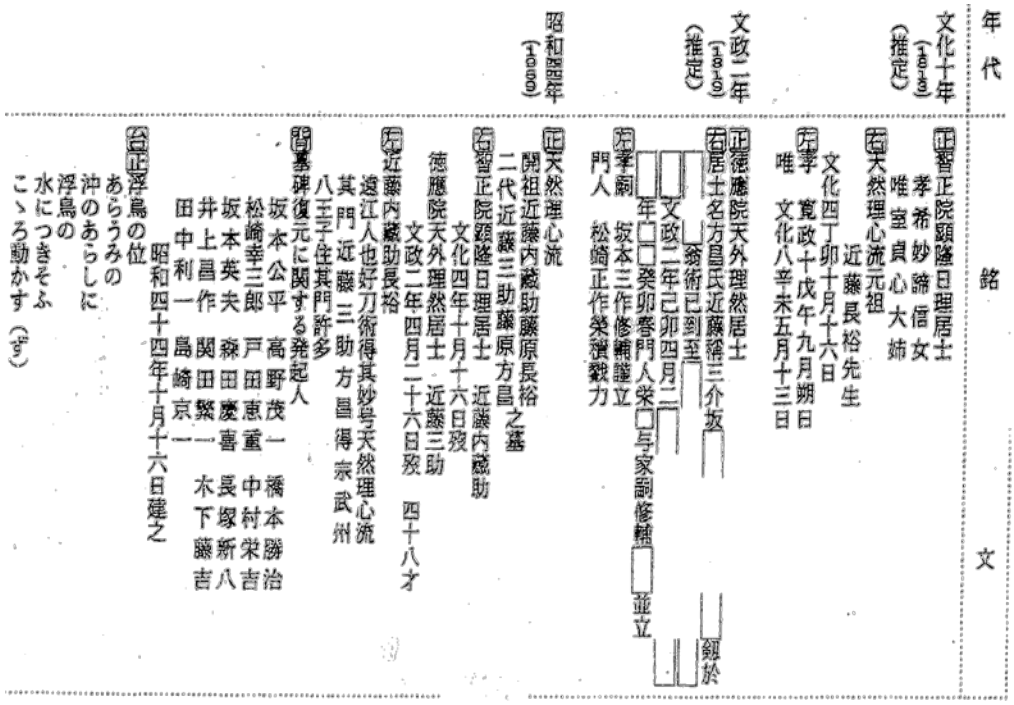
松崎則榮翁の碑

・大平真鏡流
　若菜主計豊重（わかなかずえとよしげ）が江戸時代中期に創始した剣法であり、千人同心頭やその師弟を中心に千人同心の多くが修行した。
　八王子総指南役は千人同心原組組頭塩野適斎で三代続いた。

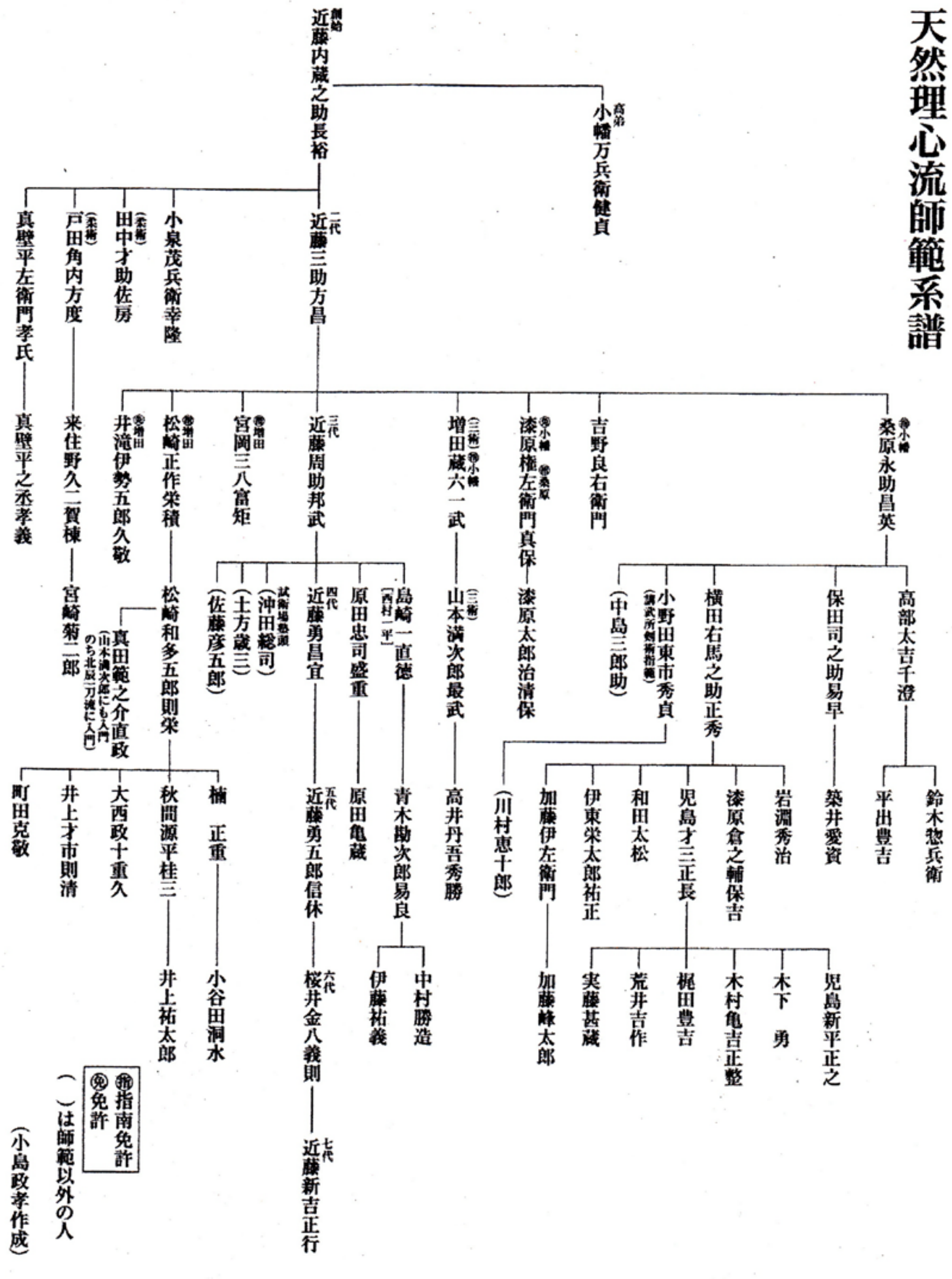
・天然理心流
　多摩地域で千人同心を含む農民の間で広まった流派である。剣術、柔術、棒術を含む総合武術で、実践的な剣法であった。
　遠江国出身の近藤内蔵之助長裕が寛政初期に創始したといわれている。多摩地方では戸吹村（現戸吹町）に道場があった。四代目の近藤勇や土方歳三、沖田総司らが新撰組の主力として活躍した。

・甲源一刀流
　千人同心の比留間半造利充は、高麗郡梅原村（現埼玉県日高市）から八王子に出稽古に赴き千人同心を指導した。

・柳剛流
　千人同心組頭石川良助が、日影和田村（現青梅市）の道場で西多摩地区の千人同心や農民を指導した。



理心流銘文



天然理心流師範系譜
創始 近藤内蔵之助長裕
高弟 小幡万兵衛健貞
二代 近藤三助方昌
小泉茂兵衛幸隆
(柔術) 田中才助佐房
(柔術) 戸田角内方度
真壁平左衛門孝氏
指小幡 桑原永助昌英
吉野良右衛門
指小幡 免桑原 漆原権左衛門真保
(三術) 指小幡 増田蔵六一武
三代 近藤周助邦武
指増田 宮岡三八富矩
指増田 松崎正作栄積
免増田 井滝伊勢五郎久敬
来住野久二賀棟
真壁平之丞孝義
高部太吉千澄
保田司之助易早
横田右馬之助正秀
小野田東市秀貞 (講武所剣術指南)
(中島三郎助)
漆原太郎治清保
(三術) 山本満次郎最武
島崎一直徳 [西村一平]
原田忠司盛重
四代 近藤勇昌宜
試衛場塾頭 (沖田総司)
(土方歳三)
(佐藤彦五郎)
松崎和多五郎則栄
真田範之介直政 (山本満次郎にも入門 のち北辰一刀流に入門)
宮崎菊二郎
鈴木惣兵衛
平出豊吉
築井愛資
岩淵秀治
漆原倉之輔保吉
児島才三正長
和田太松
伊東栄太郎祐正
加藤伊左衛門
(川村恵十郎)
高井丹吾秀勝
青木勘次郎易良
原田亀蔵
五代 近藤勇五郎信休
楠 正重
秋間源平桂三
大西政十重久
井上才市則清
町田克敬
児島新平正之
木下 勇
木村亀吉正整
梶田豊吉
荒井吉作
実藤甚蔵
加藤峰太郎
中村勝造
伊藤祐義
六代 桜井金八義則
井上祐太郎
小谷田洞水
七代 近藤新吉正行
指 指南免許
免 免許
( )は師範以外の人
(小島政孝作成)

「新撰組」典２００４より

●桂福寺の秘蔵「苦行の釈迦像」

苦行中の釈迦像を表しているが、詳細は不詳である。

苦行の釈迦像

●境内の観音堂

宝永三年（一七〇六）より、行基大師の作と伝えられる、聖観世音菩薩が祀られている

観 音 堂

●境内の豊川稲荷

明治二十二年（一八八九）より豊川稲荷の分霊が祀られている。

豊川稲荷堂

◎主な参考文献

・新編武蔵風土記稿
・武蔵名勝図会
・八王子事典
・八王子寺院めぐり　八王子仏教
・八王子市の板碑
・八王子の歴史と文化財
・八王子の文化財みて歩き
・谷慈の庄・中の郷伝説・里語り
　とんとんむかし
・八王子市郷土資料館解説シート
・桂福寺・最教寺・龍源寺　資料
・よみがえる滝山城、
・八王子発見
・ふるさと八王子
・はちとぴ №3
・谷地川地域の歴史と文化
・八王子の天然理心流
・インターネット各ページ
・八王子市郷土資料館資料
・八王子市地図
・八王子市観光マップ
・昭文社